

事前報告会
介護サービス事業の生産性向上に向けた調査事業

2017年6月21日

発表者: ウェル・ナビ株式会社 代表取締役 阿部信子

受託者: 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

1. 道具を工夫して安全確保
2. 役割・手順を「見える化」し効率的な業務ラインを構築
3. 情報のマネジメントで介護品質向上

【事例 1】 道具を工夫して安全確保

ジャルックス

【事業所】 JALUXトラスト（株） サービス付き高齢者住宅 ソルシアス佐倉

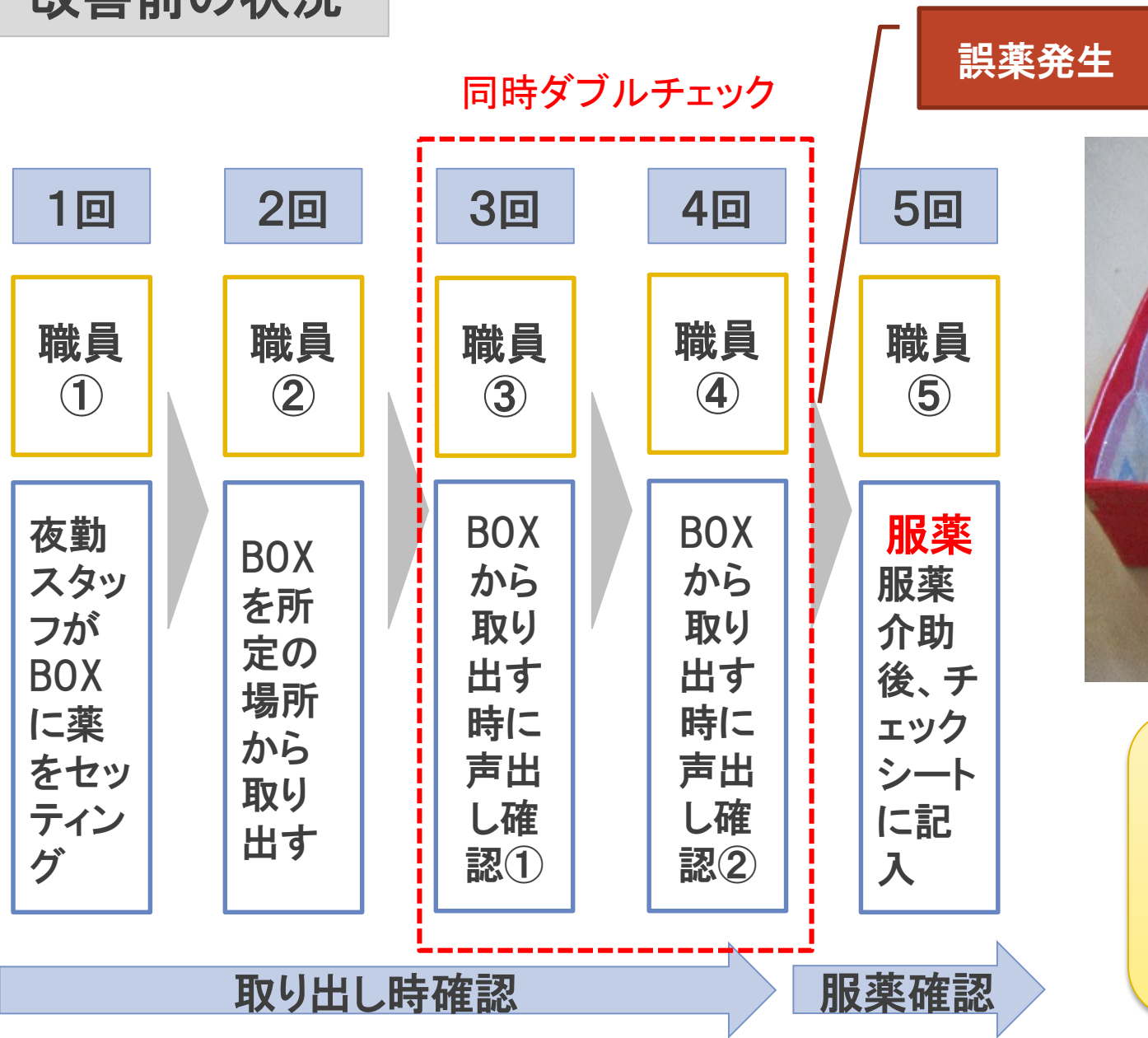
【課題】 入居者の服薬介助について、5重チェック体制でも取り違いミス発生

JALUXトラスト(株) (本社:東京都大田区)
サービス付き高齢者住宅(1箇所)、通所介護事業所(2箇所)を運営

事業所名	ソルシアス佐倉
事業内容	サービス付き高齢者住宅
所在地	千葉県佐倉市
居室・入居者数	77室(7階建)・83名
訪問介護者数	40名
特徴	7階建て、自立と要介護(支援)の混合型の入居。 訪問介護事業所を併設。



改善前の状況



誤って隣のボックスから取り出し、取り違いが発生。

服薬ボックスと手順を改善

- 利用者ごとに持ち運べる容器
- 顔写真と処方薬の写真を容器に貼り、視覚的にわかりやすく

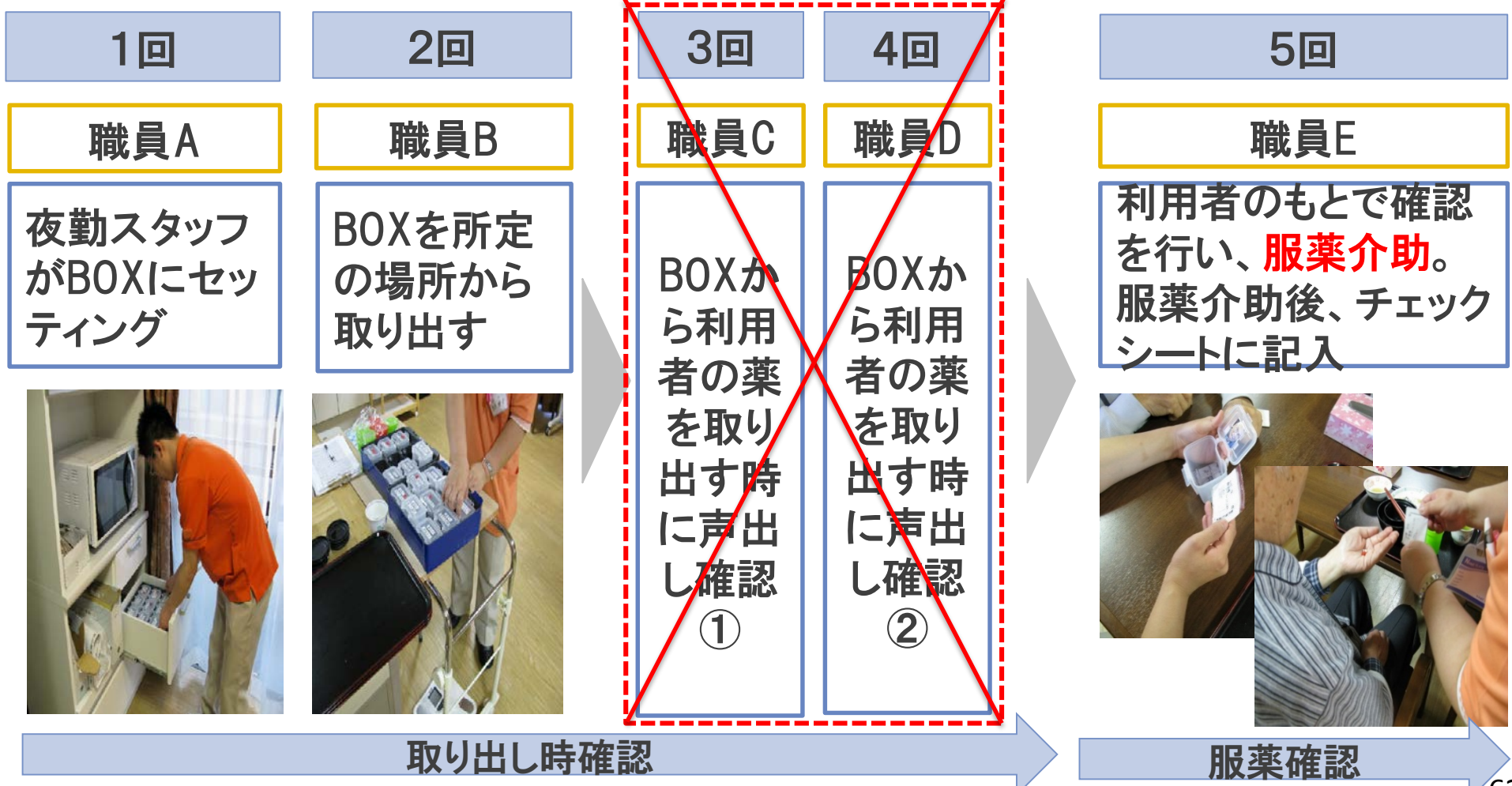


顔写真と処方薬
の確認が可能

【事例1】 道具を工夫して安全な服薬介助の実現(Safetyの向上)

- 服薬介助における確認回数(・対応職員)を40%削減(5回→3回)。
- ボックス変更後の誤薬事故はゼロ

プロセス



【事例2】 役割・手順を「見える化」し効率的な業務ラインを構築

【事業所】 JALUXトラスト（株） 通所介護事業所 ソルシアス上用賀

【課題】 利用者数と職員数が倍増し、業務の流れが円滑でない

事業所名	ソルシアス上用賀
事業内容	通所介護事業所
所在地	東京都世田谷区
定員数	55名/日（平成28年12月時点）
平均利用者数	約40名
特徴	一般的な通所に比べ敷地面積が広く2階建てになっており、フロアが3カ所に分割。

